

基本方針1 資料の収集と保存の充実

令和5年度事業計画	
①利用の多い児童書について複本購入や資料の入替えを継続して進めます。 ②大活字本の購入・除架等を進めて、整備し、使いやすい書架を維持します。 ③ひばりが丘図書館の原爆小文庫の整備と、書架を拡充します。 ④音訳・点訳資料について、資料の保存や方法の見直しを行います。 ⑤マルチメディアデジターの普及に努めます。	

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
① 児童	◆定期的な書架点検や予約状況の確認を行い、利用の多い児童書について複本購入や資料の入替えを継続して実施した。
② ハンディ	◆大活字本の新規購入をすすめた(169冊)。 ◆ひばりが丘図書館の旧原爆小文庫書架をハンディキャップサービス関連資料コーナーとして整備をはじめた。 ・ひばりが丘図書館大活字コーナーや谷戸図書館等から大活字本を88冊移動。 ・LLブックや点字本、点字つき絵本等を新規購入、他館や他書架からの移動等により配置した(84冊)。
③ 成人 原爆小 担当	◆資料の整備と書架の拡充にあたり、以下を実施した。 ・原爆小文庫の歴史を踏まえ、原爆小文庫の意義(コンセプト)を明確に文章にまとめた。 ・これまでに原爆小文庫として収集されてきた資料を一点ずつ確認し、原爆小文庫の収集基準を整理した。 ・収集基準をもとに、資料の精査と新たな資料の購入を行った。 ・同類の内容の資料がまとまって書架に並ぶように、独自の分類を決定し、各資料に付与した。 ・新たな書架と展示用ガラスケースの設置後、展示資料の陳列、その他資料の配架を行った。
④ ハンディ	◆カセットテープのうち、デジター図書としてデータがあるものについて整理して、他から借用等にて利用することができない(デジター版がない)カセットテープのみを保存することとした。
⑤ ハンディ	◆「まちなか先生」(学校出前講座)にて、マルチメディアデジターについて紹介した。 ・10/25(水)3時間目 芝久保小学校4年生2クラス(2クラス合同@体育館) ・10/26(木)5時間目 谷戸第二小学校4年生3クラス(1組からオンライン配信) ・2/21(水)3時間目 住吉小学校3年生2クラス(2クラス合同@体育館) ・1/16(火)3・4・5時間目、1/19(金)2・4時間目 田無第一中学校2年生5クラス(1クラスずつ図書室) ◆夏休みに「マルチメディアデジターおはなし会&リーディングトラックをつくらう!」を開催し、スクリーンでおはなしを再生したり、ノートパソコンを操作しながらマルチメディアデジターの機体を体験する機会を提供した。 ・8/6(日)ひばりが丘図書館講座室 ・8/27(日)田無公民館和室

基本方針1の総合自己評価・今後の課題改善点	
A	○児童書に関して資料の買替えをすすめることで、汚破損のない状態の良い資料を提供できるようにし、複本購入により予約待ちの解消に努めた。 ○谷戸図書館の書庫で保存していた大活字本について、ひばりが丘図書館の一般書開架へ移したことにより、普段大活字コーナーに足を向けない利用者の目に留まるようになり、広く一般の方へ大活字資料を知ってもらうことができた。 ○ひばりが丘図書館原爆小文庫について、半世紀の歴史を踏まえ、その意義を明確にした上でひばりが丘図書館入口付近に新たな書架を設置するといったリニューアルを行い、図書館が原爆小文庫を持つ意味をあらためて利用者に伝えることで、資料の貸出について、4年度の577冊から5年度は811冊と、利用の拡大につなぐことができた。 ○マルチメディアデジターや他のハンディキャップサービス資料について、周知が不十分であった学校に紹介することができた。アンケートから、児童・生徒の声として「マルチメディアデジターの文字の色が変わってどこを読むかわかりやすかった」「今回の授業を通してマルチメディアデジターに興味を持った」との声があがった。 ○ひばりが丘図書館において、児童向け大活字本(20冊/令和3年度以前に購入)を一般書の書架に設置したところ、令和5年度の貸出回数は14回となり、令和4年度(49回)との比較で利用率が大幅に下がる結果となった。これを踏まえ、令和6年度に新設するハンディキャップサービス関連資料コーナーは、資料がより利用されるような工夫をして整備する。 ○マルチメディアデジターは資料として認知度が低く、普及に向けた第一歩となったと考えているが、広く周知していくことが課題である。

図書館協議会委員による二次評価	

基本方針 2 すべての市民に活用されるために

令和5年度事業計画

- ① 宅配協力員との協働で、宅配サービスの効率化を図り、サービスの充実に努めます。
- ② デイジー図書の利用拡大に努めます。
- ③ 市内高齢者施設、施設入所者への読書支援に取り組みます。
- ④ 多文化理解のためのサービスは、関係部署や地域で活動する団体等と連携しながら、利用の促進を図ります。
- ⑤ 館内を紹介する動画配信を通じて、日本語を母語としない人が図書館に関心を持つ機会をつくります。
- ⑥ 資料等を活用した講演会・講座、展示等を実施します。
- ⑦ 資料等及びその活用方法について、効果的な広報を実施します。
- ⑧ 広報活動について、検証と見直しを進めます。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容

① ハンディ	◆「宅配サービスの利用者登録が芝久保図書館であり、全館で登録がある状況となった。また、担当職員未配置の館においても、宅配協力員と職員との協力・調整により滞りなく宅配することができた。 宅配協力員：18名（令和5年4月時点17名、10月新規1名） ◆平成30年度以降新型コロナウイルス感染症対策として実施を中止していた宅配協力員懇談会（参集）を実施した。 2/29（木）@谷戸図書館 参加者：9名
② ハンディ	◆「声の広報」や対面朗読についての問い合わせがあった際に、あわせてデイジー図書についても紹介し、利用につなげた。また、視覚障害の方へ地域情報や福祉情報を図書館で編集し情報提供を行っている「情報ほっとライン」（毎月発行）で積極的にデイジー図書の紹介を行った。 ◆最新のデイジー図書目録の作成に着手した。
③ ハンディ	◆引き続き、団体配送でのリクエスト資料の送付や、施設入居中の個人利用者への宅配サービス等により、読書支援を行った。市内高齢者施設などに対しては、団体配送での資料のリクエストや、施設入居中の個人利用者の方に対する宅配サービスなどにより、読書支援を行った。
④ 多文化	◆多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしむおはなし会」を開催した。 ・4/15（土）言語：英語 参加者：親子1組3名 ・5/13（土）言語：英語 参加者：親子5組11名 ・7/16（日）言語：中国語、英語、韓国語 参加者：親子4組8名 ・3/10（日）語：中国語、英語、ネパール語 参加者：親子5組11名 ◆多文化講座「アラビア書道体験ワークショップ」を開催した。 ・12/17（日）参加者：15名 ◆多文化理解のための企画展示を実施し、利用者の多文化への関心を得た。 ・「英語で読むあの絵本この絵本」 11月 柳沢図書館 ・「イスラム文化の本」 1月 ひばりが丘図書館
⑤ 多文化	◆やさしい日本語で中央図書館を紹介した動画を作成し、令和5年5月より図書館ホームページで公開した。
⑥ 成人 地域・行政資料 レファレンス (次頁有)	◆成人担当で全館統一展示（年4回）と、市他部署の取組事業に関連する共催展示（全館にて、年3回）を行った。他部署との共催展示は、以下のとおり実施した。 ・9月：「認知症を知ろう」（高齢者支援課との共催、認知症を知るキャンペーン月間の一環） ・12月：「フレイル予防」（高齢者支援課との共催、フレイル予防事業との連動） ・令和6年3月：「癒しの一冊」（健康課との共催、自殺予防キャンペーンの一環） ◆成人と地域・行政資料担当合同の講演会と関連展示を開催した。 ・6月：『西東京市図書館 縁講演会 関東大震災と東京』（6/18開催：28名）に合わせて、関連展示を実施、柳沢図書館 ◆地域・行政資料担当で講演会を実施した。 ・8/19（土）『子どものための地域を知る講演会 とびだせ田無・保谷の村-江戸時代の生活とつながる人々-』田無公民館（8名：大人5名、子ども3名） ・9/2（土）『西東京市図書館 縁講演会 西東京市の自然地理-都市水害とヒートアイランド-』柳沢公民館（19名）

⑥ 成人 地域・行 政資料 レファレン ス	◆成人担当・レファレンス担当合同で『ミニ自分史講座 一枚の写真からあの頃をふり返ってみよう』全2回の講座を開催した。 ・11/11(土)第1回9名(1名は病欠)、12/2(土)第2回8名。 講座で作成した自分史の見本を図書館HPおよび中央図書館内で公開した。 ◆レファレンス担当で図書館資料やデータベース等の有用性を伝え利用を促進するため、講演会とイベントを開催した。 ・8/2, 9, 16, 23, 30(水)イベント「自由研究応援企画『自分だけの誕生日新聞をつくろう』」(合計34名) ・10/21(土)講演会「ネット情報におぼれない学び方」(会場:4名、オンライン:10名)
⑦ 広報	◆原爆小文庫のリニューアルにあわせて、次のように広報した。 ・図書館ホームページに原爆小文庫の特設コーナーを新設した。文庫の歴史や目的に加え、新たに設けた資料分類についての解説・検索画面へのリンクを貼ることで、資料の検索や活用をしやすいよう提示した。 ・原爆投下に関わる人物を主題とした映画の公開(日本非公開)にあわせて、原爆小文庫のプレスリリースを出した。 ・地域行政資料室が所蔵する戦時中の写真を活用し、文庫リニューアルにあわせてパネル展示を行ったほか、市で実施している平和事業の広報も行った。 ・原爆小文庫の展示架で折り鶴制作の企画を行った。 ◆データベースや調べもの資料の紹介、活用にあたり、次のように広報した。 ・新聞データベースを使用したまちなか先生「新聞をつかって調べてみよう」を、市内小学校3校で実施した。(児童数計230人) ・「調べる学習ガイドブック」を作成し、館内では紙媒体のものを配布、電子図書館で電子書籍として資料登録をしたものはログインせずに誰でも見られるよう配信した。また、市内小学校1校で5、6年生を対象に、ガイドブックを利用して調べ方の説明を行った。(児童数計152人) ・データベースの活用方法にも言及した講演会を実施した。また、講演内容を短くまとめた動画を制作して、市のチャンネルにて公開した。公開情報を市内中学校に周知した。 10/21(土)「ネット情報におぼれない学び方」 田無公民館 会場4名、オンライン10名 ・データベースを新しい形で活用した講座を実施した。 11/11(土)、12/2(土)「ミニ自分史を作成しよう」 田無公民館 11/11:8名、12/2:7名
⑧ 広報	◆一般の方に向けたアンケート調査を実施し、その調査項目として広報活動の検証を行った(実施期間・回答方法・回収数等は図書館計画(令和6年度～10年度)参照)。また課内においても、図書館ホームページに関するアンケート(実施期間:2024/2/20(火)～3/3(日) 回収率:46%)を実施した。 ◆図書館だよりは、原稿作成と校正のプロセスを見直し、効率化と紙面目的の明確化を図った。

基本方針2の総合自己評価・今後の課題改善点

A	○宅配利用回数は増加。 宅配回数:478回 (R4年度:411回) 令和5年度利用者登録者:44名 懇談会を実施したことで、普段滞りなくできている活動のなかにおける小さな疑問などが解消され、次年度以降のサービスの維持のつなげられる場となった。また、宅配協力員のアンケートにより、18名中5名は、宅配の件数を「もっと増やせる」との回答を得て、利用者の増加を見越しても、バランスの良い体制を整えることができた。 ○ホームページに特設コーナーを設けたことで、それを見てメディア掲載の話へとつながるケースが見受けられた。 ○図書館アンケートでは、一般回答者の9割が図書館情報を入手する手段として図書館ホームページを挙げており、また今後力を入れてほしいこととしても資料の充実の次にホームページの使いやすさが挙げられていることから、独自広報媒体である図書館ホームページの重要性が確認できた。 ○図書館だよりの見直し後の紙面については、複数の利用者から直接高評価の声をいただいた。 ○デイジー図書貸出584タイトル(R4年度:991タイトル) 利用頻度の高い利用者が減ったため貸出回数は減少したが、新規利用者の拡大ができた。 ○団体配送でのリクエスト資料の送付や、施設入居中の個人利用者への宅配サービス等により、読書支援を行った。 団体配送:グループホームいずみ 宅配施設:東京老人ホーム、ハートフル田無 ○おはなし会への参加は平均8人程度で、日本の親子に参加してもらうことが多い。日本語を母語としない親子にも参加に繋げる仕組みを検討したい。 ○外国の文化の紹介として企画したアラビア書道体験ワークショップについて、申し込みの受付前から問い合わせが多数あって反響が多かった。ワークショップの性質上定員以上の受入れができなかったが、代わりに類するテーマ図書の展示を実施した。 ○データベースの活用方法の講演をまとめた動画は令和6年4月現在、のべ370回の視聴があった。
----------	---

図書館協議会委員による二次評価

--	--

基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する

令和5年度事業計画

- ①地域・行政資料室において、書架構成を見直し、利用者が容易に情報を探索、閲覧できるように改善に取り組みます。
②図書館ホームページに掲載している西東京市に関する情報を更に充実させます。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容

① 地域行政 資料	◆地域・行政資料コーナーの開架書架にフロア図や見出し案内を設置し、分かりやすい書架案内に努めました。また、旧田無市・旧保谷市・西東京市の予算書や決算書を自治体別・年代順に配架し、各予算・決算書を製本し、まとめることで利用者にとって分かりやすく手に取りやすい書架構成を構築しました。
② 地域行政 資料	◆図書館ホームページ「西東京市 縁(ゆかり)の方の紹介」の情報の更新を随時行い、著作や関連資料以外の情報について、4名の情報を更新、6名の情報を新規で登録、公開しました。また、西東京市在住の山本昭六氏が撮影した市内の記録写真を284点掲載し、情報の充実を行いました。

基本方針3の総合自己評価・今後の課題改善点

A	○フロア図を改めるなど、分かりやすい書架案内に努めて利用しやすいコーナーづくりを進めて以前よりわかりやすくなることができました。 ○図書館ホームページ「西東京市 縁(ゆかり)の方の紹介」の情報を更新することで、利用者が最新の情報にアクセスしやすい環境を整えることができました。
---	---

図書館協議会委員による二次評価

--	--

基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援

令和5年度事業計画

- ①子ども電子図書館サービスを導入し、読書環境の充実に向けた取組を推進します。
- ②乳幼児とその保護者に向けて、魅力的な講座を実施します。
- ③絵本と子育て事業(ブックスタート)による絵本配布等を通して、子どもと保護者の読書活動を支援します。
- ④図書館利用のきっかけづくりとなる体験型のイベントを実施します。
- ⑤放課後子供教室からの要望に応じて、試行として図書館司書を派遣します。
- ⑥普段図書館を利用することが少ない、または、図書館のYAサービスを知らない層が、図書館を身近に感じ、利用の契機となるような、魅力あるイベントの実施に努めます。
- ⑦YA世代に向けて、調べ方案内(パスファインダー)を作成します。
- ⑧学校司書と連携し、調べ学習の協力・支援を継続します。
- ⑨地域の人材を活用し、子どもと絵本をつなげるイベントを実施します。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容

① 児童	◆子ども電子図書館サービスに関する取組を行った。 ・7/14(金)保谷第二小学校へ学校訪問し電子図書館について案内を行った。(全学年:児童362名・大人21名、5・6年生には調べる学習コンクールの案内も併せて実施) ・3/3(日)「電子図書館deビブリオトーク」を実施した。(児童7名)学校司書と協力し、電子図書館を利用したビブリオトークを実施した。
② 児童	◆乳幼児とその保護者に向けて講座を実施した。 ・2/11(日)わらべうたてあそび講座「わらべうたであそぼう～手ぶくろ人形も登場!」(講師は市民団体)(子ども16名・大人14名) ・3/14、21(木)「おひざのうででよみきかせ」～乳幼児保護者向け絵本講座～(全2回:10名) ・3/24(日)「親子で楽しむ人形劇」(講師は市民団体)(子ども15名・大人13名)
③ 児童	◆絵本と子育て(ブックスタート)事業として、図書館窓口または郵送にて絵本を配布した。図書館窓口で受け取る際に、読み聞かせを実演した(14組実施)。図書館以外の市内施設での対象者への絵本の配布と施設利用者も参加できる読み聞かせを実施した。 市内施設での読み聞かせには読み聞かせ講師と武蔵野大学の学生ボランティアも参加した。 ・なかまち保育園 12/1(子ども13名、大人11名)・1/12(子ども7名、大人7名、学生ボランティア1名) ・けやき保育園 12/15(子ども25名、大人9名)・2/6(子ども28名、大人10名) ・芝久保児童館 11/17(0名、学生ボランティア2名)・3/8(子ども6名、大人4名) ・ひばりが丘児童センター 12/8(子ども4名、大人6名)・2/16(子ども4名、大人4名) ◆絵本と子育て事業20周年を記念した事業を実施した。 ・1/8(月)「二十歳のつどい」会場で当時の絵本と子育て事業で配布した絵本に関するパネルを設置し、絵本と子育て事業開始年度の対象者であった、参加者にアンケートを行った。 ・1/20(土)20周年記念講演会「もっと知りたい絵本の読み聞かせ～言葉と心を育む。絵本を共に読む本当の意味～」(子ども7名、大人32名)。 ・講演会会場での展示、後日全館で展示として「二十歳のつどい」会場で行ったアンケート結果と絵本と子育て事業開始当時に配布した絵本、記念講演会にて講師が紹介した本等を展示した。 ・「二十歳のつどい」参加者9名に、幼少期や最近の読書体験、絵本と子育て事業で配布した絵本や図書館の思い出についてインタビューし、図書館だより93号と図書館ホームページに掲載した。
④ 児童 (次頁有)	◆「一日図書館員」を全館で実施した。(夏休み期間:小学生63名、中学生5名) ◆「図書館バックヤード・ツアー」を実施した。図書館の裏側を見学、中央図書館では案内役として武蔵野大学の学生ボランティアが参加した。 ・12/26(火)中央図書館 12名、学生ボランティア3名(事業サポート) ・12/27(水)谷戸図書館 12名 ◆図書館司書が図書館以外の市内施設に出張する「おでかけおはなし会」を実施した。読み聞かせの実演者として武蔵野大学の学生ボランティアが参加した。 ・ひばりが丘児童センター 11/29(水)(子ども6名、大人1名) 2/21(水)(子ども12名、大人3名、学生ボランティア3名) ・芝久保児童館 12/27(水)(子ども32名、大人4名、学生ボランティア4名) 2/7(水)(子ども42名、大人2名、学生ボランティア3名) ・ひばりが丘公民館 2/2(金)(0名)、3/13(水)(0名)

④ 児童	◆「本町小学校deビブリオトーク」を図書館司書が本町小学校に出張し、学校司書と連携して実施した。 ・2/15(木)本町小学校 4、5年生各クラスの子ども135名 ・2/17(土)から3/3(日)子どもが用意したトークシートや、作成した本の紹介ポップ等は、柳沢図書館にて展示した。 ◆「電子図書館deビブリオトーク」を実施した。 ・3/3(日)田無公民館 子ども7名 ・3/12～31参加者が用意したトークシートや、作成した本の紹介ポップ等は、中央図書館にて展示した。
⑤ 児童	◆放課後子供教室への司書派遣を、以下5校で実施した。また、読み聞かせの実演者として武蔵野大学の学生ボランティアも参加した。 ・1/24(水)谷戸第二小学校(児童23名) ・1/31(水)住吉小学校(児童20名) ・2/14(水)田無小学校(児童22名、学生ボランティア2名) ・2/14(水)本町小学校(児童18名) ・3/13(水)芝久保小学校(児童15名、学生ボランティア2名)
⑥ YA	◆YA世代を対象にワークショップ「『伝わる』文章術、伝授します!!」を開催した。 ・8/8(火)ひばりが丘図書館 YA世代13名、zoom視聴参加含 講師:小川ころ氏(元新聞記者・文筆家)
⑦ YA	◆YA世代が、自身の力で求める情報を入手できるようにサポートするため支援ツールとして、調べ方案内(パスファインダー)を作成し、広く活用できるよう、「図書館ホームページ」及び「西東京市子ども電子図書館」に掲載・公開した。 ・図書館ホームページの「YAのページ-10代のためのページ-」内に「パスファインダー」のコンテンツを新規に作成し、基礎編として本の見つけ方・分類法・インターネットの使い方・役立ツール等本の探し方を、本編(テーマ別)として修学旅行(京都・奈良)・SDGs(目標1～4)・SDGs(目標5～8)の3つのテーマのパスファインダーを紹介した。 ・西東京市子ども電子図書館で、作成したパスファインダーを独自資料として掲載し、より多くのYA世代の目に留まるよう普及に努めた。
⑧ 児童YA	◆学校への調べ学習の協力・支援として、学校司書からの要望に応じて、随時資料の探索や調査、団体貸出等で対応を継続した。 ◆学校司書連絡会には、児童サービス担当司書職員が5回出席し、児童書の新刊紹介や情報交換を行った。 ◆団体貸出用のセット本「いいね!! 西東京市図書館」おすすめセレクト」は学校司書への周知が定着し、継続的に活用された。 ◆「第1回西東京市図書館を使った調べる学習コンクール」を実施した。(対象5、6年生:応募数33、小学5年生20名、小学6年生13名) ◆中央図書館で10/20(金)と11/9(金)の二日間に分けて国語科研究授業の一環として柳沢小学校5年生2クラスを対象に「石」と「家」をテーマにブックトークを実施した。その後子どもの館内での選書に協力し、できあがった紹介文と本を中央図書館で展示した。(2/17(土)～3/14(木))
⑨ 児童	◆市民団体との共催で「子どもの本連続講座」として講演会を実施した。 ・9/28(木)子どもの本連続講座1:講演会「一人読みへのいざない ～『聞く読書』から『読む読書』へ～」(38名) ・10/29(日)子どもの本連続講座2:講演会「うたおう、あそぼうわらべうた」(28名) ・2/17(土)子どもの本連続講座3:講演会「子どもたちにおはなしの楽しみを」(39名)

基本方針4の総合自己評価・今後の課題改善点

A	○子ども電子図書館サービスの導入をはじめとして子どもの読書環境の充実と子ども読書活動支援を行うことができた。図書館の利用カードの登録率が小学生8.1%、中学生2.7%であるのに対して子ども電子図書館サービスの利用率では小学生59.0%、中学生27.4%となっており、読書のきっかけづくりとしての役割を一定程度果たすことができた。 ○わらべうた講座や人形劇、読み聞かせ講座で親子で参加し楽しめる行事を行うことができた。 ○絵本の受取会場に図書館以外の施設を設定したことで、図書館以外の施設を保護者と親子へ居場所として紹介しつなげることができた。図書館での受取時の読み聞かせも好評だった。 ○アンケートやインタビューにより、絵本と子育て事業の趣旨に沿って配布した絵本が活用されて、子どもたちのその後の読書につながるきっかけとなっており、事業継続の意義を再確認できた。 ○放課後子供教室への司書派遣を他課等と協力して進めることができた。また、学生ボランティアが参加することで幅広い世代の交流の機会となった。 ○YA向けワークショップでは、自身で本のレビューを書いて同世代の参加者同士で共有することで、「書くこと・伝えること」の楽しさを知ってもらう機会となった。また、後日関連資料とレビューを全館で展示し、資料の提供・イベントの広報・図書館利用の促進につながった。 ○調べ方案内(パスファインダー)を作成し、YA世代が広く活用できるよう、「図書館ホームページ」及び「西東京市子ども電子図書館」に掲載、非来館者を含めたYA世代への普及に努めた。 ○絵本と子育て事業を始めとして、子どもや保護者の読書活動を支援する取組を進め、体験型のイベントや出張おはなし会などのアウトリーチ型事業に武蔵野大学の学生ボランティアと協働して取組を行った。複数の市民団体と様々な事業を連携・協力して展開することができた。 ○絵本と子育て事業で保護者に直接絵本を配布し、読み聞かせの実演や図書館の案内をする機会となる、絵本と子育て事業の健診会場で再開が望ましい。
---	---

図書館協議会委員による二次評価

--	--

基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上

令和5年度事業計画	
①武蔵野大学との協力事業を推進します。 ②「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の推進を図ります。 ③社会教育課、公民館及び図書館の共同事業として、「まちなか先生」を実施します。 ④前年度初級養成講座を修了した受講者を対象に中級養成講座を実施し、新たに活動する音訳者を育成します。また音訳技術の向上のための専門研修を実施します。	

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容	
① 成人児童	●武蔵野大学文学部との連携事業 ・11/29(水)職員(司書)の出講:文学部日本文学文化学科「入門ゼミB」9回目 特別授業(図書館司書講座) ・令和5年11月:展示「99年前と現在をつなぐ」(文学部日本文学文化学科 掛野剛史ゼミの学生(3年生 17名)の選書) ●武蔵野大学学生ボランティア参加事業 ・他施設での「絵本と子育て事業」(6回13名) ・他施設でのおはなし会「おでかけおはなし会」(3回10名) ・バックヤードツアー(中央図書館・3名) ・放課後子供教室(2回4名)
② 児童	「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」中間報告を作成
③ YA レファレンス 地域行政資料 ハンディキャップ	●「まちなか先生」実施 ・6/9(金)田無第一中学校2年生192名:ブックトーク『「図書館」×「仕事」一本で結ぶ「WORK」とわたしー』 ・6/30(金)柳沢小学校2年生97名:「西東京市に伝わるおはなしを大型紙芝居と「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」で鑑賞してみよう」 ・10/25(水)芝久保小学校4年生61名:「ハンディキャップサービスってなあに？」 ・10/25(水)柳沢小学校5年生78名:「新聞をつかって調べてみよう」 ・10/26(木)谷戸第二小学校4年生82名:「ハンディキャップサービスってなあに？」 ・11/24(金)栄小学校2年生96名:「西東京市に伝わるおはなしを大型紙芝居と「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」で鑑賞してみよう」 ・12/6(水)向台小学校2年生160名:「西東京市に伝わるおはなしを大型紙芝居と「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」で鑑賞してみよう」 令和6年 ・1/10(水)保谷小学校5年生87名:「新聞をつかって調べてみよう」 ・1/16(水)・19(金)田無第一中学校2年生192名:「知っていますか？ハンディキャップサービスのこと？」 ・1/17(水)芝久保小学校5年生65名:「新聞をつかって調べてみよう」 ・2/21(水)住吉小学校3年生74名:「ハンディキャップサービスってなあに？」
④ ハンディキャップ	音訳者中級養成講座を実施した。 ・音訳11期生 15名(令和4年度初級養成講座修了)に対し、中級養成講座を全10回実施した。 音訳者専門研修を実施した。 ・2日講座2回、3日講座1回、1日講座4回(うち広報研修2回)、デイジー機器講習会(3日間)

基本方針5の総合自己評価・今後の課題改善点	
A	○毎年度武蔵野大学学生からのアンケート結果をもとに、青年期コーナーの書架における選書や蔵書構成に反映している。今年度は160名から回答を得た。 ○合計展示冊数は130冊、貸出回数は36回だった。図書館が開催する展示とは違い、展覧会のように資料や作家、時代背景等の解説付きでの展示だったため、貸出回数は伸びなかったが、展示を見た利用者からは賞賛の声や、次回を楽しみにする声が聞かれた。参加した学生からも、「連携事業そのものが、文学部で培ったスキルを活かす事ができたと思うのでいい体験になった」「一つのテーマを通し、様々な本に触れることが出来たので楽しかった」などの感想を得た。 ○音訳11期生15名に対し、「声の広報」作成のためのデイジー機器講習会を実施した。また、活動中の音訳者に対しコロナ以前の音訳研修と同等の研修(回数)を実施し、日々の音訳技術の向上に役立てた。 ○地域に根ざした図書館として、市内の大学や小中学校、市民や団体と連携し、絵本と子育て事業やおでかけおはなし会など図書館事業の拡充を進めることができた。 ○社会教育課事業「まちなか先生」を通じて図書館の取り組みを児童・生徒に伝えることができた。 ○大学と連携した展示の実施なども含め、地域と連携した図書館サービスの向上に取り組んだ。

図書館協議会委員による二次評価

基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築

令和5年度事業計画

- ①都立図書館等が主催する専門研修、庁内研修への参加や図書館内での指導・研修等を通して、職員全体で知識や技術、情報を共有し、市民サービス向上につながるよう努めます。
- ②新たな利用者の開拓及びサービスの拡充として、中央図書館の開館時間を午前9時に変更します。
- ③次期図書館計画を策定します。
- ④図書館システムとそのシステムにつながる各館のネットワークを安全且つ安定した運用となる保守管理に努めます。
- ⑤図書館計画に基づく実施事業を自己評価するとともに、図書館協議会による二次評価を実施します。
- ⑥災害対策のための防災訓練とマニュアルの整備等を行います。

事業計画に対して、実際に取り組んだ内容

①	◆館内研修として研修動画による研修を実施した。 ・主に児童に対するレファレンスサービスについて、知識や技術向上のための研修動画を作成し、視聴研修を実施した。 ・レファレンスサービスの基本について、知識や技術向上のための研修動画を作成し、視聴研修を実施した。 ◆国立国会図書館、都立中央図書館、日本図書館協会などが開催している参加型、オンライン形式、オンデマンド配信形式の図書館員向け研修に延べ8名が参加した。
②	令和5年4月1日から中央図書館の開館時間を午前9時に変更した。
③	図書館計画策定懇談会を設置し、9回の会議を開催、素案作成を行った。その後、パブリックコメントを経て3月に図書館計画を策定した。
④	情報推進課、図書館管理システム保守会社と連携し、図書館管理システムと図書館ネットワークの安定・安全な運用を保持し、図書館サービスにおけるシステム運用として問題なく提供できた。
⑤	令和4年度の図書館事業評価について、図書館内での自己評価を実施し、同評価を基に図書館協議会による二次評価を実施した。また、評価結果を教育委員会に報告し、公開した。
⑥	消防署署員の協力を得て、公民館との合同防災訓練を10月20日に行い、両職員・当日参加した市民とともに、避難経路を確認するとともに、あわせて消火訓練を行った。

基本方針6の総合自己評価・今後の課題改善点

A	○国会図書館や都立図書館などが開催する専門研修に複数の職員が参加、業務に必要な技能・技術の習得に取り組むことができた。 ○中央図書館の開館時間を拡大したことにより利便性の向上につなげることができた。 ○図書館計画(令和6年度から10年度)の策定により、計画に基づく令和6年度以降の図書館事業を実施する第1段階として令和6年度図書館事業計画を立案できるようになった。また、同計画において、西東京市図書館構想を示すことで、市民に将来的な図書館のあるべき姿の方向性を周知できた。
---	---

図書館協議会委員による二次評価

--	--